1.

又又、突然のレターパック・・・驚かれたかと思いますが…今回2度目の手紙を書かせて頂きました。

私は、2011年5月の連休の頃、長尾先生と大宮監督が宮城県の気仙沼大島にいらして、車に乗っていたばあちゃんと、玄関で私と話をさせていただいきました。

前回の手紙にも書きましたが、映画「無常素描」のチラシの写真の真ん中(?)長尾先生が話しかけていらっしゃるのが、我が家のばあちゃん(義母)です。

おかげ様で2月7日に、満96歳の誕生日を迎える事が出来ました。

前回と変わったところは、ばあちゃんの要介護度が 5 になり、以前はデイサービスが利用できていたのですが、ショートステイだけの利用になり、それも、急な利用は難しく、なった事です。

今は、前の月末にケアマネさんが予定表を自宅に持ってきてくれる予定通りの利用をしています。
基本、月曜日は訪問看護、火・水・木曜日はショートステイ、金曜日は訪問入浴というサイクルで、昨日は訪問看護でした…その訪問看護師が、2011年5月の連休の際、大島で島内を案内してくれた　　さんです。 島内唯一の訪問看護師なので、孤軍奮闘というか、我が家のばあちゃんも、毎週お世話になっていて、とても有り難い存在です。

テレビで、先生の事を拝見した時に、すぐ手紙を書きたかったのですが、緒事情(?)で延び延びになり、今まできてしまいましたが…今日は絶対に投函する気持ちでいます。

というのも、先生の話されている「平穏死」が、身近になりつつあるからです。

もちろん「生と死」はいつも隣合わせだから、常に心のどこかで考えてはいるのですが、ばあちゃんの最近の体調を思うにつけ、先生の「延命治療で苦しまず　平穏死できる人、できない人」をしみじみ読ませていただいています。

それに加えて、今、島内の同級生がまさに「平穏死」を迎えさせたいと願う状況にあるという事も、今まで以上に、考えさせられる日々なのです。

同級生が同居している父親の病状の事を話してくれたのが、つい最近なのですが、私は自分の父親の事を思い出し、身につまされながら、自分なりに今、考えている事を話しました。

その時「・・・とにかく、今は、私はばあちゃん(義母)の平穏死を目指している(?)・・・」と話したのです。

何とか、最期まで在宅で、胃ろうなど延命治療をすることなく、静かに安らかにサヨナラしたいと思っているという事を話しました。

それは20数年前、私の父親が、末期の胃がんになり、　　病院で最期を迎えた時の、後悔がかなり影響していると思います。

あの当時、今と違い「告知」はされず、父は自分の病名を疑いながらも「胃がん」とは知らされず、最終的に、入院(1月10日)してから3ヶ月で、4月9日に亡くなったのです。

「後悔」というのは、どうせ末期がんだったなら、抗がん剤など使わずに、在宅で、仕事に通い、孫と過ごす時間を楽しんでくれたら、どんなに良かったか…という事です。

父は市役所に勤めていて、3月31日に退職の辞令を、入院先から受け取りに行きました。

その後、9日に亡くなったのですが、今なら、入院せずに緩和ケアを受けながら最期を迎えられたかなぁ…と思うのですが、当時は「緩和ケア」という言葉も知らず、父親はすぐ退院できると思い、入院していたので、とても「末期の胃がんで余命3ヶ月」とは言えませんでした。

2.

母親は父が亡くなる 5 年前に、亡くなっていたので、自分の病気の事、娘の私には聞いてきませんでしたが、叔父には「がんではないか…」と聞いたそうです。

こうして手紙を書いていると、当時の事が思い出されて、切なくなりますが、人間必ず100％死ぬのだと思えば、それが早いか遅いかの違い、そしてどう生きるか、どう死ぬか、考えないといけない事で、父親の事は、切ないけれど、大事な大切な思い出であり、経験した事を無駄にしてはいけないと考えています。

同級生の話に戻りますが、抗がん剤の治療はせずに、島内の病院へ行き栄養補給の点滴を受けたり痛み止めの薬を服用している状態で、本人も、自分の病名を知っていて、抗がん剤治療はしていないそうです。 私が「平穏死」の事を話したら、翌日、Amazon で「平穏死」に関する本「平穏死 10 の条件」他 3 冊を購入したそうです。

私が先生から頂いた【「平穏死」という親孝行】は購入しなかったみたいなので、早速レンタル(?)しました。 私自身も今読んでいる「平穏死できる人、できない人」本をはじめ、改めて、今まで以上に切実に「平穏死」について考え、実践出来たら…と思っています。

実際の所、島内には、訪問看護師は さんただ一人なので、正直、先生のいらっしゃる尼崎市の状況とは全く違い、最終的にばあちゃんがどんな風な最期を迎えるのか、手探りの状態です。

先月末に、ケアマネさんがケアプラン、利用予定表など自宅に持ってきた時「…最近、 さん(ばあちゃんの名前です)がショートステイを利用していて、食事介護する時、口からペッと出して、栄養が十分取れない事がままある…」と言われたので「…食べない時は、無理して食べさせなくても構わないです。自宅も無理して食べさせていないで、ばあちゃんの様子見ながら、あまり時間関係なく、食べそうな時に食べさせているので…」と答えたら、「それは出来ない、食事(栄養)が取れなくなったら、ショートステイの利用は難しくなります」と言われました。

その時は「えっ、それは大変…頼めなくなると困るなぁ…」と思いましたが、手紙を書いている今は、頼めなくなったら、その時はその時…と開き直った心境になっています。

少なくとも、昨日から頼めていて、明日(午後 4 時頃)のお帰りなので、それまでは、市内への用足しも大丈夫なので、出来なくなった時の事を思い悩むより、今、出来ている事に感謝ですよね。

ちなみに、今日は午前中、島内にある「 センター」で行われた健康診断を受けてきました。

明日は、用足しに市内へ 9:20 の船で、出掛けます。

まとまり無い手紙になり、申し訳ありませんが、この辺で、印刷して郵便局へ行こうと思います。

同梱のものは、2015 年 3 月 11 日付の地元紙(三陸新報)＆炊飯器ケーキ(ゴマ風味)＆大島産の塩蔵ワカメ(少々)＆です・・・

とにもかくにも、ご笑納＆ご賞味下されば嬉しい限りです。

お忙しい中、手紙を読んでいただき、ありがとうございました。

長尾和宏先生へ

2015. 6. 24